

平成23年度 補助事業審査・評価委員会 評価作業部会 審議概要  
(第1回・第2回)

## 1. 評価作業部会の設置

「審査・評価委員会に於ける評価関連の審議に資するため、評価に関する課題を集中的に審議しその結果を同委員会に報告することを目的に、機械・公益の各審査・評価委員会の評価専門委員からなる評価作業部会を設置する。」ことについて、平成23年度第2回機械振興補助事業審査・評価委員会（H23.7.7）及び、同第7回公益事業振興補助事業審査・評価委員会（H23.7.8）において承認された。

## 2. 評価作業部会の開催（平成23年度内に4回開催予定）

- (1) 第1回 開催日時：平成23年8月1日（金）13:00～15:30  
開催場所：財団法人 JKA 7A会議室  
出席者：大島 巖、早野 透、高千穂安長、丹羽富士雄、吉岡 忍  
（五十音順・敬称略）※丹羽部会員が部会長に就任  
（事務局）笹部俊雄、池田稔、佐藤弘和、木村友実  
議題：(1) JKA補助事業評価（マニュアル）の改正について（案）  
(2) その他
- (2) 第2回 開催日時：平成23年9月30日（金）15:00～17:00  
開催場所：財団法人 JKA 7A会議室  
出席者：丹羽富士雄（部会長）大島 巖、川戸 恵子、早野 透、  
高千穂安長、山谷清志（五十音順・敬称略）  
（事務局）笹部俊雄、佐藤弘和、渡邊修功、木村友実  
議題：(1) JKA補助事業評価について  
(2) その他  
報告事項：JKA一次評価（案）の一部試行について
- (3) 今後の開催予定
- ・第3回 平成23年11月25日（金）15:30～17:30
  - ・第4回 平成24年1月中旬頃

## 3. 第1回、2回の主な審議内容

JKA補助事業評価の目的を再確認のうえ、評価の枠組み（評価の流れ、評価手法）及び評価結果の公表のあり方について議論した。

### (1) JKA補助事業評価の目的について

評価結果の公表することにより、補助事業の透明性の確保と社会的説明責任を果たし、社会一般に対しJKA補助事業の更なる周知と理解促進を目指すことを主眼とする。

## (2) 評価の枠組み（評価の流れ及び評価手法）について

個々の補助事業を「木」、JKA補助事業の全体像を「森」になぞらえ、「個々の補助事業（木）の評価」から「JKA補助事業の全体像（森）の評価」に至る、評価の手法等について議論した。

また、「評価情報の収集にあたっては、評価対象数を踏まえ、なるべく負荷のかからない効率的な手法を考案する必要がある。」との意見があった。

### 【個々の補助事業（木）の評価】

#### ① 審査担当委員の「チェック」について

- ・ JKA一次評価の内容
- ・ 審査時に実施条件を付与していればその達成状況
- ・ 事業の実施状況、結果・成果

#### ② JKA一次評価について

- ・ 自己評価に基づく評価

「事前計画／自己評価書」の評価項目のうち、「目標の達成度」、「事業の成果・波及」を、評価項目とする。

- ・ 事業の促進・阻害要因の自己分析に基づく評価

自己評価の一部について、「事業の促進・阻害要因分析シート（案）」による内部・外部要因の自己分析を補完的に実施する。

### 【JKA補助事業の全体像（森）の評価】

JKA一次評価の分析を基に、JKA補助事業の状況について仮説を構築し、評価する。

なお、分析項目及び整理・分析手法については、事業分野別の特徴を踏まえ、具体的事例を通して、引き続き検証していく。

## (3) 評価結果の公表にあたって

評価結果の公表は、評価結果を適切にフィードバックすることにより、個々の補助事業者の事業改善と、JKA補助事業の更なる向上を目指すことを目的とするが、公開する場合、JKA補助事業評価が当該補助事業者の社会的評価と誤解されない工夫が必要である。

## JKA補助事業評価 評価の流れと評価者(案)

補助事業者	JKA事務局	審査担当委員	評価担当委員	審査・評価委員会
審査 (事前評価)	組織審査・要件審査 (補助事業グループ)	② 審査 (事前評価)	-	③ 採否決定
事業実施	④ 事業実施	-	-	-
評価	⑤ 自己評価	⑥ JKA一次評価 (評価室)	⑦ 個々の補助事業 (木)の評価 チェック	⑧ 個々の補助事業(木) の評価結果 承認
				⑨ JKA補助事業の全体像 (森)の評価 [ 個々の補助事業(木) の評価結果把握 ]
				⑩ JKA補助事業の全体像(森) の評価結果 承認

	評価者	評価書式	内容
⑤ 自己評価	補助事業者	事前計画 / 自己評価書	補助事業終了後、事業の実施状況・過程等を、事前計画と対比して自ら検証(事業実施の目標達成を促した(阻害した)要因の分析も含む)するとともに、課題、得られた教訓等を整理する。また、得られた教訓等を、自らの事業の改善、更なる発展につなげる。
⑥ JKA一次評価	JKA(評価)事務局	JKA一次評価 評価シート ※検討中	事業目標の達成状況、事業の成果・波及、及び事業実施の目標達成を促した(阻害した)要因について、とりまとめる。 ※事業実施の目標達成を促した(阻害した)要因を把握するため、補助事業者には自己評価書に加え、事業の促進・阻害要因の自己分析を依頼する。
⑦ 個々の補助事業(木) の評価 チェック	審査担当委員	審査担当委員 チェックシート (仮称)※検討中	審査した個々の補助事業(木)について、「JKA一次評価の内容」、「審査時に実施条件を付与していればその達成状況」、「事業の実施状況、結果・成果」を確認する。
⑧ 個々の補助事業(木) の評価結果 承認	審査・評価委員会	-	審査担当委員の[⑦個々の補助事業(木)の評価チェック]をJKA事務局が取りまとめたものを承認する。
⑨ JKA補助事業の全体像(森) の評価	評価担当委員 (評価作業部会)	未定	個々の補助事業(木)の評価結果をもとに、補助事業の事業分野、事業形態等の観点で分析し、目標の達成状況の傾向及び事業の実施・成果の目標の達成を促した(阻害した)要因の傾向を整理することにより、JKA補助事業の全体像(森)を把握し、評価する。
⑩ JKA補助事業の全体像(森) の評価結果 承認	審査・評価委員会	-	評価担当委員(評価作業部会)の[⑨JKA補助事業の全体像(森)の評価]結果をJKA事務局が取りまとめたものを承認する。

# JKA一次評価について (案)

## 自己評価

評価項目	内容	評価時点
1) 受益者	①対象者	終了直後
	②ニーズ	〃
2) 事業内容	①具体的内容	〃
	②研究の新規性・萌芽性・独創性(※1)	〃
	③実施(研究)計画	〃
	④実施(研究)体制	〃
3) 目標	①事業(研究)の実施結果	〃
	②事業の成果・波及	終了1年後(※2、※4)
4) 広報	①事業(研究)の成果	終了直後/1年後(※3)
	②競輪・オート補助金事業	終了直後/1年後

補完的情報

- ※1: 研究のみの項目  
 ※2: 補助事業実施年度の翌年度末(便宜的に「終了1年後」という。)  
 (例)平成23年度事業の場合、平成25年3月  
 ※3: 「広報」の評価では、まず終了直後の状況をもとに評価を行い、この結果をもとに総合評価を判定する。次に、終了1年後の状況の確認を行い、終了直後より状況が改善し、より高いスコアを獲得できることが判明した場合には、(終了直後のスコアの代わりに)このスコアを用いて総合評価を判定する。  
 ※4: 次のような変化があった場合、「事業の成果が広がった」とみなす。  
 ・他の団体と連携することで、事業の規模が拡大した  
 ・他の地域・団体が、当該事業と同様の取組を行うようになった  
 ・企業等からの依頼を受け、技術の実用化に向けた研究が開始した等

## JKA一次評価 (基礎評価)

評価項目	内容	評価方法															
1) 目標の達成度	①事業を着実に実施できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目標値の達成状況」を以下の基準に照らし、スコアを判定                             <table border="1"> <tr><td>5点</td><td>4点</td><td>3点</td><td>2点</td><td>1点</td></tr> <tr><td>120%以上</td><td>100%以上</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr> <tr><td></td><td>~120%未満</td><td>~100%未満</td><td>~80%未満</td><td></td></tr> </table> </li> </ul>	5点	4点	3点	2点	1点	120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満		~120%未満	~100%未満	~80%未満	
	5点	4点	3点	2点	1点												
120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満													
	~120%未満	~100%未満	~80%未満														
②事業の成果を達成できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目標値の達成状況」を以下の基準に照らし、スコアを判定                             <table border="1"> <tr><td>5点</td><td>4点</td><td>3点</td><td>2点</td><td>1点</td></tr> <tr><td>120%以上</td><td>100%以上</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr> <tr><td></td><td>~120%未満</td><td>~100%未満</td><td>~80%未満</td><td></td></tr> </table> </li> </ul>	5点	4点	3点	2点	1点	120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満		~120%未満	~100%未満	~80%未満		
5点	4点	3点	2点	1点													
120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満													
	~120%未満	~100%未満	~80%未満														
2) 事業の成果・波及	①目標どおりに情報を発信できたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目標値の達成状況」を以下の基準に照らし、スコア(※2)を判定                             <table border="1"> <tr><td>5点</td><td>4点</td><td>3点</td><td>2点</td><td>1点</td></tr> <tr><td>120%以上</td><td>100%以上</td><td>80%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr> <tr><td></td><td>~120%未満</td><td>~100%未満</td><td>~80%未満</td><td></td></tr> </table> </li> </ul>	5点	4点	3点	2点	1点	120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満		~120%未満	~100%未満	~80%未満	
	5点	4点	3点	2点	1点												
120%以上	100%以上	80%以上	60%以上	60%未満													
	~120%未満	~100%未満	~80%未満														
②事業の成果が社会に広がったか	<ul style="list-style-type: none"> <li>「事業の成果の広がり(※4)」を次の基準に照らし、スコアを判定                             <table border="1"> <tr><td>5点</td><td>3点</td><td>0点</td></tr> <tr><td>事業の成果が社会に広がった</td><td>事業の成果が今後広がる兆しがある</td><td>事業の成果が社会に広がる動きはない</td></tr> </table> </li> </ul>	5点	3点	0点	事業の成果が社会に広がった	事業の成果が今後広がる兆しがある	事業の成果が社会に広がる動きはない										
5点	3点	0点															
事業の成果が社会に広がった	事業の成果が今後広がる兆しがある	事業の成果が社会に広がる動きはない															
3) 事業の促進・阻害要因	①事業の実施を促した(阻害した)要因は何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助事業者は、次に挙げる要因を選択する                             <table border="1"> <tr> <th>内部要因</th> <th>経費、実施体制、資材の調達、実施期間、運営/ノウハウ</th> </tr> <tr> <th>外部要因</th> <th>受益者の規模・ニーズ、その他の環境変化(関連法制の変更、災害の発生、技術開発等)</th> </tr> </table> </li> </ul>	内部要因	経費、実施体制、資材の調達、実施期間、運営/ノウハウ	外部要因	受益者の規模・ニーズ、その他の環境変化(関連法制の変更、災害の発生、技術開発等)											
	内部要因	経費、実施体制、資材の調達、実施期間、運営/ノウハウ															
外部要因	受益者の規模・ニーズ、その他の環境変化(関連法制の変更、災害の発生、技術開発等)																
②競輪・オート補助金事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局所見                             <table border="1"> <tr> <th>A++ (極めて高い)</th> <th>A+ (比較的高い)</th> <th>A (概ね十分)</th> <th>B (一部未達成)</th> <th>C (未達成)</th> </tr> <tr> <td>9点以上</td> <td>7~8点</td> <td>5~6点</td> <td>3~4点</td> <td>2点</td> </tr> </table> </li> </ul>	A++ (極めて高い)	A+ (比較的高い)	A (概ね十分)	B (一部未達成)	C (未達成)	9点以上	7~8点	5~6点	3~4点	2点						
A++ (極めて高い)	A+ (比較的高い)	A (概ね十分)	B (一部未達成)	C (未達成)													
9点以上	7~8点	5~6点	3~4点	2点													

## 総合評価

評価項目	評価点	事務局所見
終了直後	1)①、2)①のスコアの合計	事務局所見
終了1年後	1)①~2)②のスコアの合計	事務局所見

整理番号/補助事業番号	補助事業者名	補助事業名
23 〇 〇〇		
項番	総項目数	
事業項目名		
作成者		

①「『事業の実施』の目標達成を促した(阻害した)」と自らが考える要因を選択してください。 →

② ①で選択した「促した(阻害した)」の具体的な内容を記述してください。

要因の所在	促進	阻害	要因	具体的な内容
内部要因			経費	
			実施体制（人員、関係機関の協力等の確保）	
			資材調達（事業実施に必要な物資等の確保）	
			実施期間（事業終了までに要する期間）	
			事業運営のノウハウ（進捗管理、資金管理等）	
			設計仕様の変更（主に建築）	
			その他	
			受益者の規模・ニーズ	
			実施体制以外の団体等の協力・支援	
			関連法制度の変更	
外部要因			利害関係者（受益者以外）の要望等への対応	
			災害の発生（地震、洪水等）	
			競合するサービス・事業の出現	
			その他	

該当するものに○

自由記述

# JKA補助事業の全体像（森）の評価のとおりまとめ方針（案）

## 1.目的

個々の補助事業（木）の自己評価を受けて実施する「JKA一次評価」の評価及び、自己評価の一部について、補完的に実施する「事業の促進・阻害要因分析シート（案）」による内部・外部要因の自己分析により、JKA補助事業の状況について仮説を構築し、評価する。

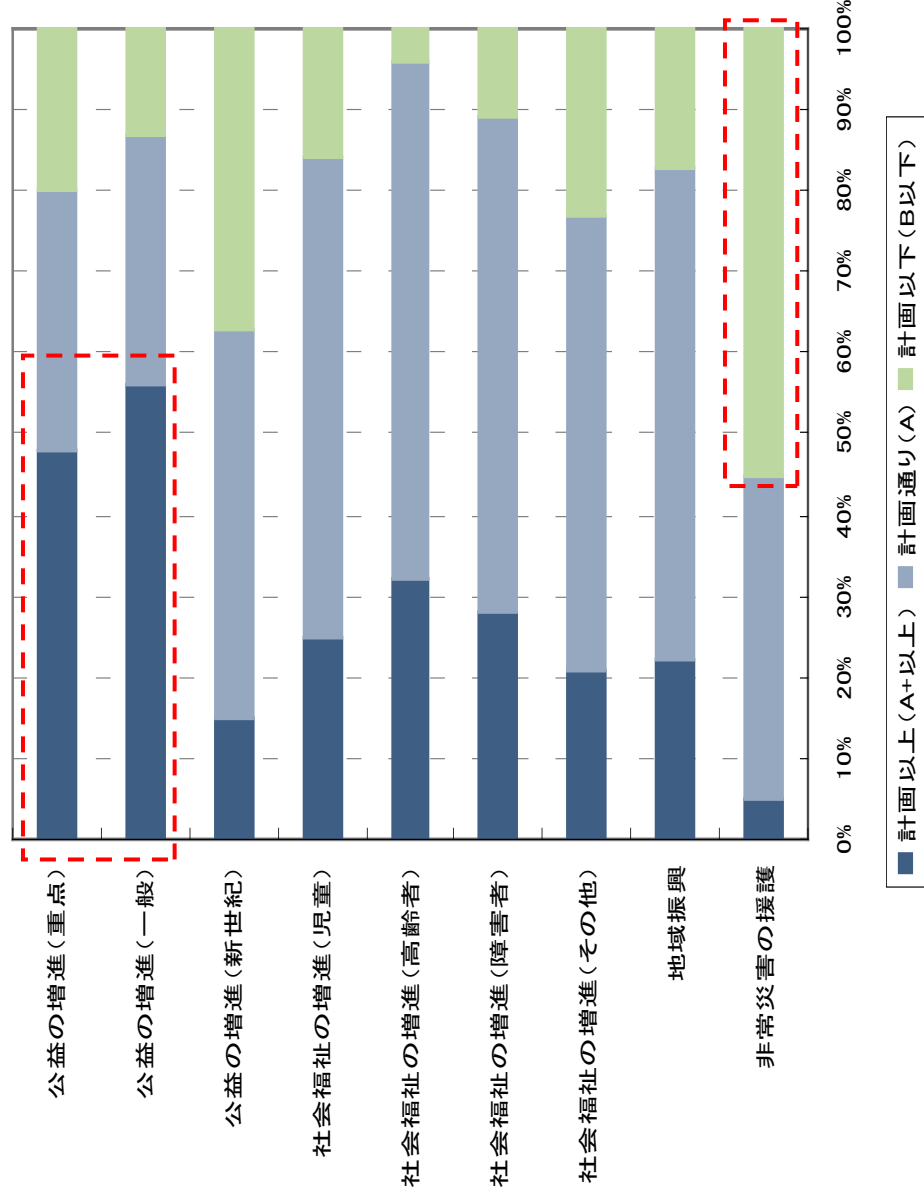
## 2.分析方法

視点	対象	分析
(1) 目標の達成状況の傾向把握	① 目標の達成度（評価点） ② 事業の成果・波及（評価点） ③ 総合評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標別（社会的弱者の安全・安心の確保等）</li> <li>・ 事業分野別（高齢者、障害者、国際交流等）</li> <li>・ 事業形態別（セミナー、調査・研究、機器設置等）</li> <li>・ 実施主体別（社会福祉法人、NPO、大学、公設試等）</li> </ul> 等の観点から分析し、その傾向を評価する。 （分析イメージは下記を参照）
(2) 事業の促進・阻害要因の傾向把握	事業の実施・成果の目標達成を促進した（阻害した）、内部・外部要因の自己分析情報 ※平成24年度以降の自己評価には、当該自己分析を評価項目として追加する。	

### （分析イメージ例）

#### (1) 目標の達成状況の傾向把握 関連

【「事業分野別」の観点から分析した場合のイメージ例】



#### (2) 事業の促進・阻害要因の傾向把握 関連

【「実施主体別（社会福祉法人）」の観点から分析した場合のイメージ例】

要因	一次評価結果	
	計画以上/通り (促進要因)	計画以下 (阻害要因)
内部		
経費	75%	41%
実施体制	60%	70%
資材の調達	10%	20%
実施期間	5%	67%
運営のノウハウ・スキル	43%	10%
設計仕様の変更	1%	12%
その他	4%	6%
外部		
受益者の規模・ニーズ	7%	45%
実施体制以外の団体等の協力・支援	21%	2%
関連法制の変更	3%	7%
利害関係者(受益者以外)の要望等への対応	—	30%
災害の発生	—	52%
同様の技術開発	—	8%
競合するサービス・事業の出現	—	3%
その他	—	3%

※分析する内容によっては、対象とされない要因もある。

多くの補助事業者が促進・阻害要因として回答した要因に注目